

**【栄区】令和3年第1回区づくり推進横浜市議員会議
議事録**

開催日時	令和3年2月5日（金） 午後3時20分～4時20分
場 所	栄区役所新館4階8・9号会議室
出席者	<p>【座長】 輿石且子議員</p> <p>【議員：2名】 大桑正貴議員、長谷川えつこ議員</p> <p>【栄区：30名】 富士田学区長、小泉信義副区長、 青木匡史福祉保健センター長、 井上弘毅福祉保健センター担当部長、 鈴木誠土木事務所長 ほか関係職員</p>
議 題	<p>1 令和3年度個性ある区づくり推進費予算案について</p> <p>2 会議報告書作成について</p>
発言の 要 旨	<p style="text-align: center;">（説明省略）</p> <p>長谷川議員：新型コロナウイルス感染症対策というところが、今回は重要なポイントになってくるかと思う。その中で、セカンドキャリアのポータルサイトのPRやセーフコミュニティの認証都市との交流、ミニ・キエーロの普及促進や啓発活動、そういった地域の皆様に活動を促すようなPR方法や促進方法ということについて、何かこのコロナ禍において考えていることはあるか。</p> <p>永松区政推進課長：セカンドキャリア支援については区民と区民をつなげていくためのサイトという形なので、活動自体に新型コロナウイルス感染症について具体的に配慮してくださいということがこのサイトの中にあるわけではないが、コロナ禍の中で人と人が関わりにくくなっているという状況を踏まえて、こういうサイトをつなげていこうと考えている。その中でやはり区民の仕事だけではなく、地域活動をやっていただけるような形ができるのではないかとということで進めている。</p> <p>セーフコミュニティについては、今年は分科会等もなかなか活動できなかったという現状があるが、その中でZoom等でお話をしたりということに対応しているところもある。地域の活動に関しては市民局の新しい生活スタイル応援事業等を地域の中で活用していただいたり、新しい生活スタイルに対応していただ</p>

くような形を区としてもサポートできればと思っている。

長谷川議員：本郷台魅力向上事業について大いに力を入れて取り組んでいただきたいと思うが具体的に今どのような形で考えているのか。

永松区政推進課長：昨年に新しいマンションができたということもあって、そういうところを新しいにぎわいづくりのきっかけにしたいと思い、以前から本郷台駅周辺の魅力を検討していくという形で進めてきた。現在は駅前の広場を使った形で何かができないかということで、商店街の方々や区民活動センターに関わっている方など地域で活動されている方と相談しながら、日常風景として本郷台の駅を出たら何かが変わったなと思えるような企画を検討している。今年度も同じような形でやっていこうと思っていたが、緊急事態宣言もあり、工夫しながら今検討を進めている。皆様にご報告できるタイミングになったら、情報提供させていただければと思っている。

長谷川議員：新規で地域猫活動の支援というものがあるが、実際にはどういった形で進行していくのか。

渡邊生活衛生課長：支援の方法としては、地域にお話しして、地域の中でお世話いただける方やボランティアの方々にご協力いただき、ルール作りをしたあと、区の手配する捕獲籠で捕獲、不妊去勢をして、数を減らしていこうと考えている。

長谷川議員：「窓口混雑緩和に向けて」について、転入・転出に関してはマイナンバーを使うことが難しいと思うが、引き続きこれを窓口業務でやっていく上で、スムーズに行うための対策か何かを考えているのか。

齊藤戸籍課長：転入・転出のオンライン化については、横浜市では1月下旬から転出の方に限り、マイナンバーカード所有の方を対象に届出が可能になっている。また、マイナンバーカードの利便性向上ということについては、総務省が転入・転出のオンライン化に向けて法改正を今国会に上程すると聞いている。私どもとしても、戸籍課長会等の中でもオンライン化、セルフ手続化の進捗をぜひお願いしたいと局を通じて国に働きかけるようお願いしている。現状ではマイナンバーカードを使った制度改正を視野に国は進めていると聞いている。

大桑議員：来年度、横浜市もデジタル統括本部ができるということで、先

ほどのマイナンバーの件もだが、現時点で具体的な提案には至らないがいろいろ効率化できるところは効率化していただければと思う。何かあったらまた教えてほしい。

予算案の考え方にSDGsを意識した取組とあるが、意識した事業はあるのか、それともこれは区政を進めていく中でそういうものを意識していくということなのか。

伊藤総務課長：まず、全般的に理念的な部分では、誰も取り残さないという考え方をベースに考えている。個別の事業として、SDGsの17の目標で当てはめると、例えばセーフコミュニティの事業では「すべての方に健康と福祉を」や、「パートナーシップで目標を達成しよう」といったような事業につながってくるのかと思われる。また、キューロなど生ごみ堆肥化事業は「気候変動の具体的な対策を」や「つくる責任つかう責任」といったようなものにつながってくるのかと思われる。

大桑議員：手間になってしまうかもしれないが、ひと目で分かるようにSDGsの目標の何番と入れると区民の方も意識がつくかと思う。手間なのですぐにできないかもしれないが、おいおいお願いしたいと思う。

次に全体的なところで、区民まつりやSAKAE ヤングフェスティバル、中学校の駅伝大会ロードレース大会の開催について新型コロナウイルス感染症の収束頼みというところはあると思うが、何か見通しはあるか。

根本地域振興課長：ロードレースに関しては、人との接触機会を減らすという意図で、計測チップやゼッケンを当日受付しなくても郵送でできるのではないかという方法の検討と、最後の記録証と表彰の部分も一堂に会さなくても、記録証は後日何キロ何分何秒でしたという発送をもって代えられるのではないかと検討している。ただ、実際に走る場面において人との距離を避けるというのは、中学校対抗駅伝もそうだが、競技的に難しいとは思う。

また、区民まつりやヤングフェスティバルは入場者の確認、連絡先やお名前等を全部把握しないと開催できないため、名簿ではなくてカード形式で名前と住所を書いてもらい、投票箱のようなものに入れていただいて把握するとか、入場の際の人数制限等を行うなど、事務局では検討しているが、やはり新型コロナウイルス

ス感染症の収まり具合ということが一番大きいかと思う。

大桑議員：スクールゾーン対策協議会は、今年度は書面開催だったと思うが、困ったこととか、逆にそれでも何とかできたという感じなのか、感触を教えてほしい。

根本地域振興課長：スクールゾーン対策協議会は、今年度は開催できなかったが、それぞれの学校から要望を頂いて、警察、土木、区役所、それぞれで検討した結果をお返ししているところだ。実際に顔を合わせて会議を開催しなくても地域の要望は真摯に受け止めて、それに対してできることできないことを回答するという点においては、特段例年と変わりなく進んでいると思う。

大桑議員：会ってコミュニケーションを取ることはとても意味のあることだと重々承知しているが、保護者の負担などいろいろなことを考えて、進めてほしい。

本郷台駅前の魅力づくりのことは何かあったらぜひ教えてほしい。

栄 IC・JCT は、大分予算が減ってしまったが意見交換を続けていくということでもいいのか。また里帰りの桜の復旧はどういう形で進んでいくのかを教えてほしい。

永松区政推進課長：栄 IC・JCT は令和 7 年度に開通予定ということもあるので、区としてもそこまで継続的にお話をサポートして、まちづくりについて検討していきたい。

里帰り桜の復旧については、令和元年 9 月に発生した台風 15 号の影響で折れてしまったので、今回予算を計上している。野毛山公園にも日米の桜交流 100 周年を記念したものがあり、そこから枝を分けていただいて、区役所で地道に今まで育てており、ようやく接ぎ木が成功したので植樹を冬に進めていきたいということで予算を計上している。

大桑議員：養育者向け情報発信のうち新規の「栄区妊娠・出産・子育てマイカレンダー」と、その下の「リーフレット作成」についてが、何か大きく変えてやっていくということなのか、それとも延長ということなのか。また、こども家庭支援課のレイアウトが変わっていたかと思うが、何かいい効果があったか。

佐藤こども家庭支援課長：1 つ目のマイカレンダーだが、母子手帳を交付する際、母子保健コーディネーターという専門職が面接して、い

ろいろな相談支援を行っており、受診スケジュールや必要な手続きがわかるものを母子手帳に挟み込むようなサイズで作成する。今年度はこども青少年局の予算で作成しているが、やはり栄区としての独自性が必要だろうということで、令和3年度からは栄区予算でマイカレンダーを作成しようと考えている。

レイアウト変更については今まで学校連携担当、保育所、放課後対策を行う担当と、子育て一般や虐待、女性相談の担当が廊下で分断されていた状況があったので学校連携部門と子育て部門を統合した。今後、来庁者の方が立ち寄りやすく様々なニーズに応えていくということと、壁面が少しできたので、幼稚園・保育園の教育施設の紹介なども掲示していきたい。

伊藤総務課長：2階のレイアウト変更については高齢・障害支援課も併せて見直しをしていて、待合スペースを広げた他、2課の、来庁者の個人情報保護のための相談スペースの拡充や、スクリーンの設置を行っている。

大桑議員：1件感想だが、こども青少年局にも確認し、健診や予防接種とかは想定より減っていないという話を聞いているが、やはり新型コロナウイルス感染症が心配で来られないとかそういう話もあり、虐待などにつながるようなことにもなりかねないので、ぜひ気をつけていただきまた何かあったら教えてほしい。

興石座長：新型コロナウイルス感染症のことで、この後ワクチン接種の動きが加速化していくと思う。栄区は集団で受けられる場所ということで公会堂等を予定しているかということを知りたいのと、恐らくそういうことになると思うが、その際に栄共済病院と区役所、公共施設が比較的近くにあることが栄区のメリットだと思う。栄共済病院は今プレハブで発熱者センターというのを駐車場につくっているが、そことの連動というようなことを考えているかということを知りたい。ワクチン接種を始めると当然、副反応の問題というのが新型コロナウイルス感染症とはまた別の症状として懸念されている。万が一アナフィラキシーなど、集団接種の現場でそういう方が出たりすると、途端に不安に思う方もいらっしゃると思う。副反応の問題については健康福祉局や医療局やもっと専門的なところで根本的な話し合いをしないといけないと思うが、その手前のところで万が一があってもこういう流れで対

応していくという、ある程度現場での心構えが必要なのではないかと思うがどうか。

伊藤総務課長：集団接種の会場については、健康福祉局に最近組織されたワクチン接種担当が今中心となって 18 区の集団接種会場を区とも連携しながら調整を進めている。ご提案いただいた栄共済病院との連動といった部分、副反応の課題についても局で検討しているものと思う。

興石座長：全体の調整はそういう流れだと思うが、現場の物理的な条件とか対応というのは、意外と局のほうでは区の状態を伝えないと伝わらないことが多いので、私も努力するが、ぜひ栄区はこういう条件ということ、意見交換を密にしてほしい。副反応の問題はとてセンシティブなことだから、つらい思いをする人を一人も出さないというような覚悟で臨んでほしい。

新型コロナウイルス感染症に関して地域防災拠点の在り方が気になる。保土ヶ谷区の区提案反映制度で、拠点支援職員と拠点との関わり方を見直すというような提案が上がっている。その点を栄区は何か検討しているか。

小泉副区長：保土ヶ谷区の状況は詳細を存じ上げないが、コロナ対策として必要な物品等を拠点に配備している。

興石座長：新型コロナウイルス感染症のために新たにそろえた備蓄品もローリングストックとしての流れに入れていけないので、コロナ禍での拠点の運営の仕方というのはぜひ話合いをしてほしい。

タッチーくんの魅力発信で提案だが、道路局の事業でハマサポベンチというのがある。ふるさと納税のお金を使ってベンチを置いていく事業だが、なかなかいいアイデアで、それぞれの地域で区民の方にすごく喜ばれていると伺っている。栄区もタッチーくんを使ったベンチの設置というのをやっていったらいいのではないか。タッチーくんのグッズを購入したお金が一体何に使われるのかということをよく聞かれるので、そのお金を使って皆さんが座るベンチに使うとか、使い方がはっきり分かるような、喜ばれるものとして出来上がると、皆さんがグッズを買うにしても積極的になると思う。タッチーくんの魅力発信事業でその辺は何か検討しているか。

永松区政推進課長：グッズの販売価格が作成の経費でほぼ利益が出るものではないので、利益を使ってというものにはなり得ず、今回予算計上しているのは、ストックがなくなってきたものを補充するという形になっている。あとは今現在スポーツセンターに販売をお願いしている部分の経費を合わせると、今売っている金額でギリギリの設定になっているので、そこを使ってということは今のところ考えていない。

興石座長：タッチーくんを使って栄区の飲食店を応援するとか、何かタッチーくんに活躍してもらって区民を元気にすることはまだまだできることがあると思うので、ぜひ検討してほしい。

永松区政推進課長：皆様に応援してもらい、今年度は最後のゆるキャラグランプリを神奈川県1位で終えることができた。いつも区の中で言っているが、永久に1位になったということになるので、そういうことを記念して何か打ち上げていきたいなということは考えている。そのときには皆様のこうしたほうがいいというご意見を踏まえて進めていければと思う。

興石座長：タッチーくんのピンバッジを私はいつもつけているが、売っていないかとよく聞かれる。作っていただけたらありがたい。

地域の商店街の応援ということだが、道路局で道路占用許可基準を緩和して路面で飲食の販売ができるようなことが出ていて、これは全市的に展開していることで、栄区でもそういう対応と違ってよいか。

高橋土木事務所副所長：路面展開できるのは新型コロナウイルス感染症の対応で一時的な暫定措置になっている。通常は道路内で販売行為等はできないが、今回コロナ禍ということで暫定措置として商店街で取り組む場合には一時的に認められるということなので、今後これがどう続いていくかというのは、我々もまだ分からないが、そういう形で進められている。

興石座長：商店街という単位で許可を申請するということになるのか。

高橋土木事務所副所長：そのとおり。個人ではなくて商店街単位で申し込んでもらう形になっている。

興石座長：栄区の場合、解散している商店街が大分出てきてしまっていて、今の状態だとしようがないと思うが、各個店を応援するため、区の事情を伝えながら独自でできることをやっていただけたらあ

りがたい。道路局に伝えることなのか経済局に言うことなのか、
そういう道を開いていくことはできるのか。

高橋土木事務所副所長：その先のことはまだ言い切れないが、どちらにせよ国土交通省からの通達で今は動いているので、その動き次第になるかと思う。

興石座長：私たちも努力する。

魅力発信で昼休みコンサート事業や夏休みコンサート事業、栄区
民芸術祭事業があるが、これらはオンライン配信とかの工夫を各
団体もしていると思うが、それをバックアップするような区の施
策はあるか。

根本地域振興課長：補助を受けた団体がオンライン配信をやるというので
あれば、一緒になってできるものはやっていきたいと思ってい
る。

興石座長：ぜひ力を入れてやっていただきたいと思う。

またセーフコミュニティの「地域福祉保健計画の推進」の中に
地区支援チーム員というのがあるが、このチーム員というのはど
ういう組織なのか。

角田福祉保健課長：区役所の中に地区支援チーム、今栄区内ですと7連合
あるので、7つの地区ごとに福祉保健センターの職員や、総務部
職員、地域ケアプラザ、区社協といった、地域のために何かでき
ないかというような同じ目的の下にいろいろと集まっているチ
ームがある。このチームを対象とした地区支援に当たってのスキ
ルを学べるような研修ということになる。

興石座長：一般向けではなくて、職員の方のスキルアップ研修ということ
か。

角田福祉保健課長：地域ケアプラザ等も含むが、基本はまず支援する側の
スキルアップということで行っている。

興石座長：バス停留所上屋設置補助事業について、。実施はいつ頃になる
のか、もうスケジュールは出ているのか。

永松区政推進課長：夏頃に整備箇所の公募を行うという形で考えている。
神奈中、江ノ電、どちらかということが想定されるので、そちら
のバス会社と調整しながらという形になると思う。

興石座長：夏に調整して、年度内に設置がかなうということか。

永松区政推進課長：この予算を計上できるかどうかということから全て

バス事業者等とは事前の調整をしていて、夏頃にとというのはバス事業者とも調整してそういう形になっているが、コロナ禍の中で本当にそこに振り向けられる予算がバス事業者にあるかどうかというのが、まだ見えないところもあるので、そこも含めて調整させていただくという意味で申し上げた。

興石座長：いつも様々な局で話題になるが、どうしても栄区、瀬谷区のように市営バスが通っていないところに対しての市の補助金とかが薄いというのは肌感覚で持っている。市営バスと同じように神奈中も江ノ電も相当経営が大変だと思う。高齢化率の高い街には必須だと思うハード整備なので、それこそ区提案反映制度等を使って補助を要請していくことはできないか。

永松区政推進課長：区提案反映制度は内部のことなので、基本的に道路局と調整しながら進めていたが、まずは区として始めてみようということで区のほうで検討している。過去にこういう形で進めていたこともあるので、それを踏まえて改良を重ねて計上している。

興石座長：ご努力くださって本当にありがたい。

生活困窮セーフティネット強化というところで、アウトリーチパートナー向け研修というのが目についたが、この地域支援者とはどのような方か、またこれは区民の方を対象にした研修ということか。

村山生活支援課長：この地域支援者は、民生委員やケアプラザの職員とか地域の支援者という方を対象にしている研修になっている。

興石座長：生活保護に関しても法律等も大分年々変わってきているので、研修の内容というのもそうすると年によって違うのか。

村山生活支援課長：生活保護よりはどちらかというと地域で民生委員の方が、例えば 8050 問題は どうやって支援したらいいのかとか、地域の方から支援の方法やニーズを どういうふう に把握したらいいのかなど、を講師の先生がアドバイスをして勉強するという会になっている。

興石座長：大変な事業だと思うが、ぜひ暖かく支援してほしい。

栄区民ロードレース大会で実は皆勤参加者というのがおられる。皆勤賞をお祝いしてあげたいという話が一昨年あたりから出ているが、ほかの賞も考えて、最年長の方とか一番早く走った方とか、いろいろな賞を整えて臨みましょうというお話を伺って

たところ、コロナ禍で中止になってしまった。再開するに当たっては、今までとちょっと違う楽しめるようなことをぜひ検討していただきたいと思うが何かあるか。

根本地域振興課長：実行委員会のほうでちょうど30回の記念で、30回走った次の年で30回完走おめでとう賞みたいなのをやろうかと思っていたところで、今回がなくなってしまった。来年は新型コロナウイルス感染症対策に力を入れていきたいと思っているが、この連続記録というところは考えさせてほしい。

興石座長：障害者と農業の連携ということで伺いたいのが、環境創造局の農業支援ということと健康福祉局で農福連携というので大分掛け声が大きくなってきて、取り組もうという動きがあるが、実際にやろうとするとなかなか大変な事業だ。私もNPOをつくって農福連携を始めて2年ぐらいになるが、本当に一步一步小さなことしかできないというのが現状だ。栄区は障害者施設も多数あるので、農業従事者も多い栄区らしい事業だと思うが、農福連携に対して何か障害者自立支援協議会の方と話し合ったりとか、具体的なことや具体化していなくても何か考えがあるか。

小田高齢・障害支援課長：自立支援協議会につきましては、やはり新型コロナウイルス感染症の関係でオンライン等も使い連絡会をやっているが、今頂いたようなお話については、特に出たということは聞いていない。今ご示唆いただいたことについては、次回の協議会でお伝えをさせていただきたいと思う。

永松区政推進課長：瀬谷区が今回の区提案反映制度の中で農福連携を出しているの、そこを勉強させていただくのと同時に、私たちが飯島町でやられている障害者の方との農場のチラシを頂いたの、高齢・障害支援課と共有していきたいと思う。

興石座長：区提案反映制度は、私はとてもいい制度だと思うが他区でもいろいろなアイデアが出てきているので、毎年、去年はどうだったのかというのを確認いただき、栄区こそこれはやるべきだというような事例がたくさんあるので、ぜひうまくこの制度を使っただきたいと思う。

最後に栄区の今回の区提案反映制度案件を拝見したら、ほかの区とはちょっと違う栄区らしいところがあって、誇らしい気持ちになった。AIのこととかオンラインセルフ手続の充実とか防災

のQRコードの表示とか、そういう最新技術に対しての目が向けられていて、非常にいいと思う。それと併せてハード面のことがどうしても郊外部は弱くなるので栄区のハード的な側面にももう少し事業局が着目してくれるような提案をしてほしい。何か考えがあるか。

富士田区長：先生のご指摘のとおり、ハード面を取り上げていくことは大切だと思うので、今後やっていきたいと思う。もう一つ、やはり区提案制度の中ではある意味遅い部分もあるのかなど。提案制度のシステム自身も改善の余地がすごくあると思っている。例えば予算の時期とのずれとかが非常にあるので、そこも含めてお話をしていきたいと思う。

永松区政推進課長：決してハード面の提案をする気がないということではなくて、ハード面を要望しても最終的な実現は10年後や15年後というような形になるところもあるので、今現在進めている上郷公田線だったり笠間の交差点はしっかりやっていただくとともに即効性のあるものとして何かないかということは道路局と調整している。残念ながら今回、合意に至らなかったところはあるが、昨年度の予算に合ったようなナッジとかそのようなソフト面でのことを何か予算が関係なくても工夫できないかということは考えていきたいと思っている。

大桑議員：読書活動推進事業は2次の目標もできたので、ぜひ着実に進めていただきたいと思います。あと、先ほど興石先生から話のあった栄公会堂だが、たしか改修に入るのではないかと思います。それも含めて私たちもできることはあると思うのでぜひお声掛けしてもらい情報共有させてほしい。

興石議員：ご発言がないようであれば本件については以上となる。

会議報告書の作成については座長一任。了承

備 考